

## 「外国人留学生のための日本文化体験研修 in 五ヶ瀬町」の実施報告



9 月 26 日(土)～27 日(日)に外国人留学生 22 名、日本人学生 1 名、留学生 OB・アドバイザー・事務局 6 名の参加を得て当財団主催の「外国人留学生のための日本文化体験研修 in 五ヶ瀬町」を実施しました。今回は、宮崎県五ヶ瀬町に行って 1 泊 2 日の日程で五ヶ瀬町の神楽鑑賞、小水力発電所作成体験・見学、ぶどう収穫体験、五ヶ瀬町国際シンポジウムでの五ヶ瀬町の問題解決をテーマにした発表会、五ヶ瀬町ワイ

ナリー見学などを行いました。

### 1. 事業目的

- ・留学生、元留学生並びに国際交流に関心の高い日本人に参加を呼びかけ、九州の山村(宮崎県五ヶ瀬町)で農家に宿泊し、農業体験をするとともに日本の伝統文化「神楽」を鑑賞し、日本の生活、文化を肌で感じてもらうこと。
- ・五ヶ瀬町で開催される国際シンポジウムに参加し、NPO 法人や大学の研究者と一緒に地域の活性化のための再生可能エネルギーの活用について知見を広めるとともに、五ヶ瀬町の将来について学生が真剣に考えてチームに分かれて発表を行うことで、学生と地域の交流だけでなく地域の未来のための活動に共同で取り組む機会をつくること。

### 2. 事業概要と実施結果

#### ■国際シンポジウムでの留学生チーム(4 チーム)による発表

- ・テーマ「五ヶ瀬町を日本一美しい村にするにはどうしたらいいか」  
過疎に悩む五ヶ瀬町の住民が幸せになり、景色だけではない本当の「美しい」村づくりを進めるために、地域の産業、文化、生活に新しいアイデアを提案することを目標とする。
- ・発表時間 1 チーム 5 分間
- ・審査委員 林安德九大名誉教授、片野明子財団評議員、河部事務局長、井口主任
- ・上記審査委員の審査により、順位を決定する。
- ・開催場所 五ヶ瀬町国際交流館
- ・開催日時 9 月 27 日(日) 午後 12 時半～2 時 50 分
- ・スケジュール 1230 ワークショップ発表 留学生 4 チーム  
高校生 of インドネシア見学報告  
1400 藤本静岡大学准教授、リドワン氏の講演  
1450 閉会
- ・参加者  
五ヶ瀬町の高校生 5 名(インドネシアの小水力発電見学結果を発表)  
インドネシアの地域 NPO 代表 リドワン氏(記念講演者)

九大大学院工学研究院副コア長・NPO 法人「日本で一番美しい村」連合 資格委員 山田泰司氏(コーディネーター)  
静岡大学準教授 藤本穰彦氏(基調講演者)  
五カ瀬自然エネルギー研究所 所長 石井 勇氏(司会)  
当財団研修参加者  
五カ瀬町の町民 20 名程度

### 【実施結果】



- ・4 チームに分かれて発表した留学生チームは、五カ瀬町の過疎化の現状を踏まえ、ファーマーズマーケットの創設とか、さまざまなユニーク提案を行い、五カ瀬町民の方々も聞き入っていた。この発表の内容については後日五カ瀬町長にも報告し、五カ瀬の町役場の地域総合戦略会議で生かしたいとのことだった。
- ・発表までの準備はバスでの移動やワイナリーの会議室などを利用して細切れの時間で行った。発表という共通の目標を持った留学生たちはチームワークを発揮して、熱心に議論し発表の内容を固める中で交流も進んでいた。
- ・準備段階でチームの議論が膠着したときなどアドバイザーの元留学生や林名誉教授、片野評議員が適切にアドバイスしていた。

### ■日本の伝統文化「夜神楽」鑑賞、五カ瀬町の方々との交流会



- ・五カ瀬町に依頼し、特別に「夜神楽」を2時間程度鑑賞する。
- ・今回の参加者はほとんどが五カ瀬に来るのは初めてで、夜神楽も初体験だったこともあり非常に熱心に鑑賞していた。
- ・夜神楽の前には1時間半ほど夕食での懇親会が同じ会場で行われ、五カ瀬町の方々と留学生たちとの交流もあちこちで見られた。

## ■農泊体験

- ・6つの農家に分宿し、各農家の方々と交流するとともに、ワインの原料となるぶどう収穫の体験を行う。

### 【実施結果】

- ・農家での宿泊は6つに分かれて行われたが、1晩と短い時間ではあったもののそれぞれ5~6人ずつ農家に入り家族のように一緒に生活し、温かいもてなしに留学生たちは農家の方々に感謝の気持ちを伝えていた。

## ■小水力発電の制作と五ヶ瀬内にある小水力発電の見学

- ・小水力発電の設備の制作の一部を体験し、併せて町内各地にある小水力発電設備を見学する。

### 【実施結果】



- ・留学生たちはインドネシアのキンチール方式という小水力発電を採用している五ヶ瀬町の小水力発電の木製設備の制作体験を五ヶ瀬町の職人さんに指導を受けながら行い、実際の制作工程を体験することで見学だけでは得られない理解が進んだように思われる。
- ・その後町内の各所に設置された小水力発電設備を見学、実際に電灯の点滅などで電気が作られているのを見て、石井所長や関係者に質問するなど小水力発電が小さいながらも五ヶ瀬町の自立に向けた取り組みに有効に活用できることを多くの留学生が興味深く見ていた。

## 3. 行事全体についてのコメント、評価など

- ・五ヶ瀬町は町づくりのために様々な仕掛けを長年行っており、小水力発電所をはじめ、ワイナリー工場とぶどう生産者農家の連携、農泊による学生等外部からの人々の受入などが有機的に結びついて町の活性化につながっています。
- ・2009年から数回にわたって五ヶ瀬町の協力で留学生を受け入れてもらっていますが、数年前から始めた発表会で留学生に五ヶ瀬町の課題を真剣に考えてもらい、その成果を五ヶ瀬町の町づくりの議論の中にも生かしていただけるのであれば、シンポジウムに参加された町民の方々、NPO法人や関係者の方々と一緒に考えた意義は大きかったと思われま

以上